資料３

第３回審議会の主な論点

歴史・動向	地域の歴史・動向	○**歴史的な軸**が捉えられていない（瀬戸大橋開通と宇高連絡船の廃止、全国で３番目に設立された高松工芸高校）。 ○**イサム・ノグチ**のことを高松で触れるべき。**石工の技術を伝承**していることもあわせてアピールする。 ○**ニューヨークと高松のつながり**がある。
考え方	創造都市の考え方	○これまでの常識にはなかった創造的な物を作るという意味で「クリエイティブ」という言葉を使っていると解釈している。 ○暮らし続けるためには、**儲けることが大切**であり、経済活動が文化・芸術の支えである。
創造的アプローチ	創造都市の担い手	①アーティスト アーティストに高松市にもレジデンスしてもらい、**住み続けたいと思えるような機会**を作る。 ②市民 高松に住んでいる**市民自身が高松のファンになる**ことから始める。また、**市民一人一人が高松市の方向性を理解**しなければならない。なかなか動かない人たちを動かす仕組みも必要である。 ③行政 **市職員に高松市の専門家**になってもらいたい。もしくは、市の職員が**分かりやすい言葉で市民に情報を伝え**、市民と行政が一体となる取組をすべき。
	創造的な拠点施設	○**高松市美術館の建替**とあわせて、**ソフトとしてどういう運営**を行っていくか。核となるスペースは重要であり、街の中心に置かれるのか、エリアによって小さなセンターを作るのか、人がその情報やスキルを得るために、どこへ行けばよいのか。 ○**歴史的な建物や工場跡を活用**して、新しい機能を埋め込んで成功した事例が多い。
	創造的な空間	①歩いて楽しいまち＆魅力的な水辺のあるまち これからは、**「居心地の良い」場所に人は集まる**。ほとんどの都市で歩行者空間化がされている。また、古い街を防犯対策目的で蛍光灯を設置するのではなく、間接照明で魅力的に変えている。丘の上の教会が見えるように景観規制をし、また水辺を楽しめる場所として開放している都市もある。 創造都市高松を目指すには、**２０３０年の高松市**も視野に入れて、**「歩いて楽しいまち」**と**「水辺を魅力的にする」**という２つの指針から、公共空間の再編をする。 ②瀬戸内海に拓けた高松城とその城下町の活用 城が海辺に建っており、その周りに扇状に城下町が広がっている構造は日本ではここしかない。**海と城と街という関係を活用**しないわけにはいかない。 ③楽しく美しいまちなかの形成 サンポートを企業誘致の場とするだけではなく、もっと楽しく美しい場所にして欲しい。また、丸亀商店街だけが栄えても駄目。アクセス手段の改善が必要である。**「きれいで安心なまち」**をめざしたい。 ④郊外における創造都市づくり 香川町、塩江町の話が出てきておらず、このままでは高松市中心街のみの考えになるという危惧がある。

創造的アプローチ	ブランディング	○石の彫刻や工芸や盆栽など力のあるコンテンツが高松市にはあるので、**高松のイメージや都市のブランディングとしてまとめる**ことが重要。 ○**芸術・文化・スポーツ**は世界的に見ると、オリンピックのプログラムとして一体化している。意識的に取り入れてみても良い。 ○ブランドは大好きだが、生活の普段着ではないので、それに結び付けることが大切。
	情報の発信	○イギリス・ブラッドフォードでは、都市マスタープランは諸外国で作ったとしても、市民にうまく伝えることが難しいため、**実現すれば夢のような都市ができると伝える動画**を作った結果、市民、とりわけ経営者に投資などを促すことにつながった。 ○「鹿児島がおもしろい」という内容の本を２冊出し、それを片手に鹿児島を巡る若者が増えている。 ○内向きのイベントだけではなく、**世界に発信できるもの**も視野に入れる。
プロジェクト	ワールド・フェスティバル・プロジェクト	○今後の芸術祭に向けて、市がどのような体制を取っていけるか。 ○生活工芸祭という「クラフトフェア」を開催。１回限りではないフェスティバルを繰り返すことがその担い手を増やし、また最初は**テンポラリーな設置だが、次第に公共設置になっていく**ことで公共空間が変わることもある。
推進に向けて	ビジョンの推進	○今後どうやって実行していくかが大事である。さらに一歩進んで、**主体は誰なのか、どういう運営をしていくのか**を議論する。その際、プランを作って**実験して、また検討して**新しいプランを作るというスタイルが大切。
	審議会のあり方	○思い切って「絵に描いた餅」を作って大風呂敷を広げてしまうこともあり。小さな取組はU−４０の若い人々に考えてもらい、審議会では**壮大な高松市の行く末を考え、大風呂敷を考える**べき。 ○この審議会は、**「集中か選択」という厳しい選択**をしなければならない。
	審議会と連動した取組	○**公共空間のワーキンググループ**を作ることは検討すべき。 ○この創造都市審議会で授業を作る、学生たちに発信してもらう。
	庁内他局との関係	○それぞれの分野で様々な審議会や協議会が開催されているとしても、全体としての関連性が見えにくい。新たに計画を策定している分野もある中、このビジョン自体も策定途中なため、**各計画の担当者がこのビジョンの成り行きを見ている**。